

平成22年3月期
第2四半期決算説明資料

平成21年11月11日

 川重冷熱工業株式会社

平成22年3月期第2四半期決算概要

当第2四半期累計期間の当社の受注高は、空調・ボイラ両事業の機器本体、改修改工事・メンテナンスが減少したことにより、前期比8億71百万円減少の100億96百万円となりました。売上高は、空調事業の機器本体の受注高減少等に伴う減少ならびにボイラ事業の機器本体の減少、改修改工事の減少により、前期比9億25百万円減少の72億91百万円となりました。

利益面では、諸費用の削減等に努めた結果、営業利益は、前期比1億90百万円増加の2億9百万円、経常利益は、前期比1億76百万円増加の2億11百万円となりました。また、当四半期純利益は、当社の関係会社である同方川崎空調設備有限公司(中国)の業績の推移から投資の損失に備えるため、出資額のうち66百万円を投資損失引当金繰入額として特別損失に計上しましたが、前期比52百万円増加の57百万円となりました。

平成22年3月期第2四半期損益計算書 川重冷熱

金額単位:百万円(百万円未満切捨て)

	前第2四半期	当第2四半期	前年同期比	備 考
売上高	8,217	7,291	88.7%	第2四半期決算の総括に記載の通り。
売上総利益	2,051	2,122	103.5%	
販売費及び一般管理費	2,032	1,913	94.1%	
営業利益	19	209	1100.0%	第2四半期決算の総括に記載の通り。
営業外収益	24	10	41.7%	
営業外費用	9	7	77.8%	
経常利益	35	211	602.9%	第2四半期決算の総括に記載の通り。
特別利益	13	-	-	
特別損失	-	66	-	
税引前四半期純利益	48	145	302.1%	
法人税等	43	87	202.3%	
四半期純利益	5	57	1140.0%	第2四半期決算の総括に記載の通り。

平成22年3月期第2四半期貸借対照表 川重冷熱

資産の部

金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前第4四半期末	当第2四半期末	備 考
流動資産	8,298	8,178	
現金及び預金	13	25	
受取手形・売掛金	5,983	4,993	売上高の減少による
棚卸資産	1,297	1,897	大口の仕掛案件の増加による
その他の流動資産	1,003	1,262	親会社預け金の増加による
固定資産	3,758	3,661	
有形固定資産	1,762	1,711	
無形固定資産	216	228	
投資その他の資産	1,780	1,720	
資産合計	12,057	11,839	

平成22年3月期第2四半期貸借対照表 川重冷熱

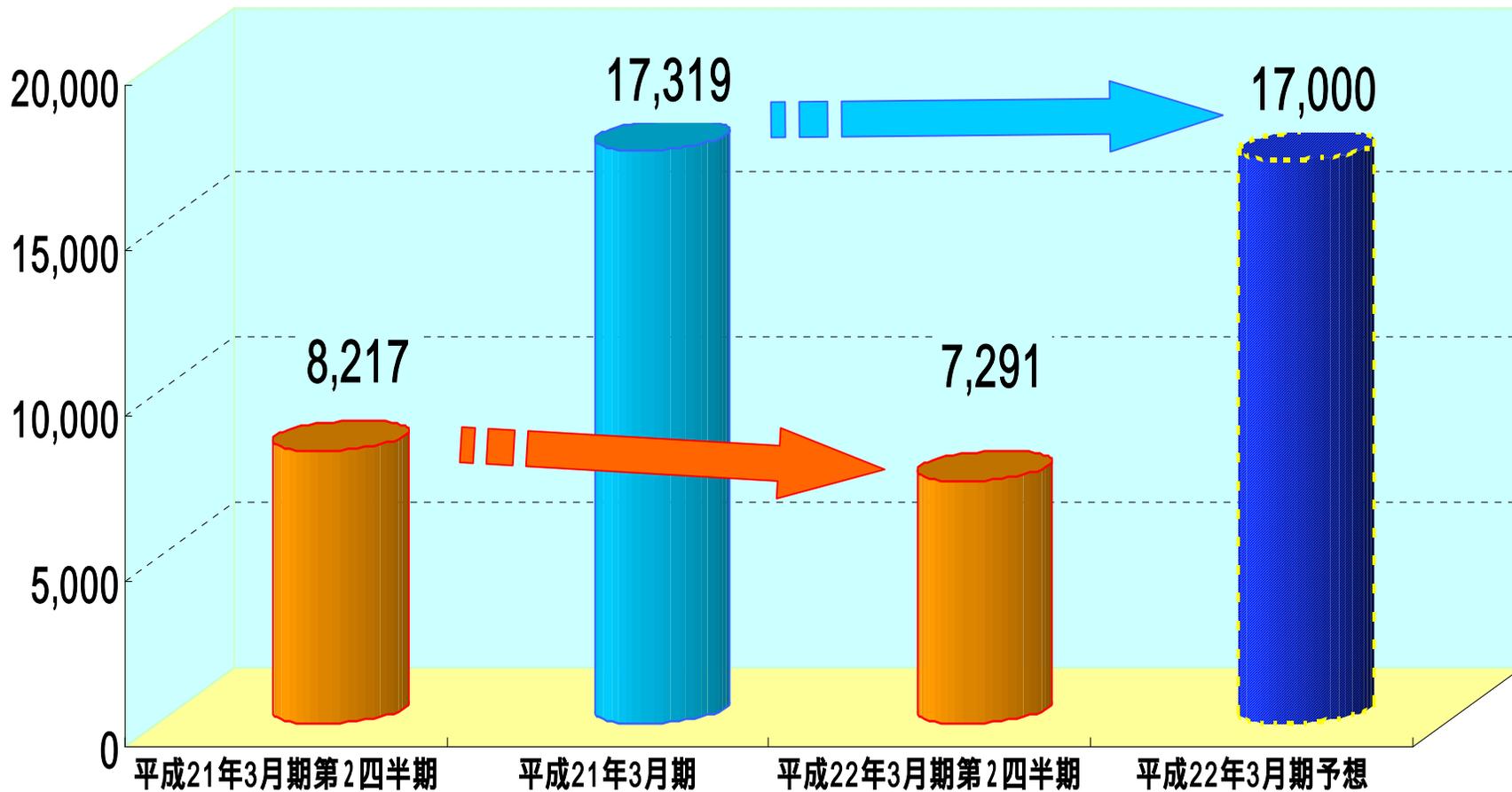
負債・純資産の部

金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前第4四半期末	当第2四半期末	備 考
流動負債	4,940	4,860	
支払手形・買掛金	3,705	3,448	受注高の減少による
未払法人税等	26	100	
その他の流動負債	1,207	1,311	
固定負債	3,040	2,891	
退職給付引当金	2,902	2,771	定年退職者への退職金支払による取崩
その他の固定負債	138	120	
負債合計	7,980	7,752	
資本金	1,460	1,460	
資本剰余金	1,228	1,228	
利益剰余金	1,392	1,399	
評価換算差額等 その他有価証券評価差額金	9	13	
自己株式	14	14	
純資産合計	4,076	4,086	
負債・純資産合計	12,057	11,839	

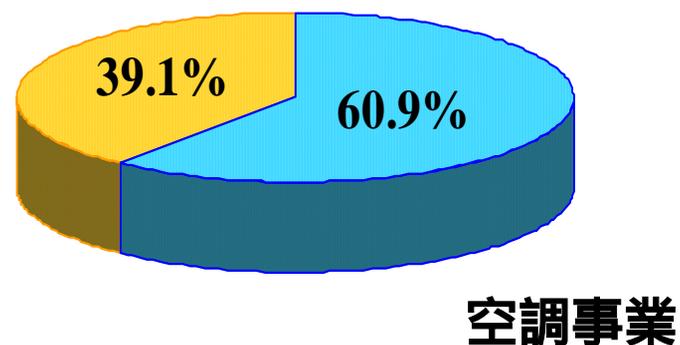
売上高の推移

(単位:百万円)

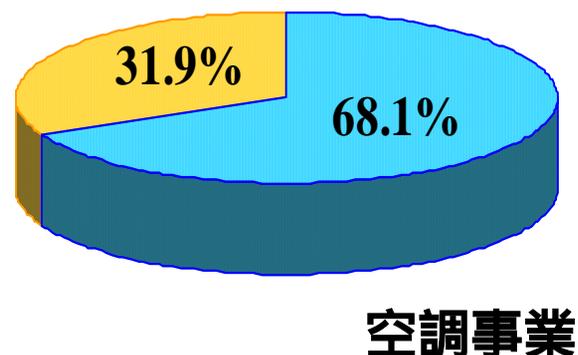


売上高構成比の比較

ボイラ事業



ボイラ事業



平成21年3月期
第2四半期決算

平成22年3月期
第2四半期決算

空調事業

機器本体の売上高は、大規模商業施設等で使用される大型吸収冷温水機とコージェネレーションシステム等に使用されるジェネリックタイプの吸収冷温水機等が減少したため、前年同期を下回りました。

改修改造工事・メンテナンスの売上高は、オーバーホール等の大口工事が、減少したことが影響し、前年同期を下回りました。

ボイラ事業

機器本体の売上高は、コージェネレーションシステム等に使用される排熱ボイラならびに大型貫流ボイラ等が減少したことにより前年同期を下回りました。

改修改造工事・メンテナンスの売上高は、省エネ改造等の工事が減少したため、前年同期を下回りました。

平成22年3月期 業績予想

平成22年3月期の業績予想

金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

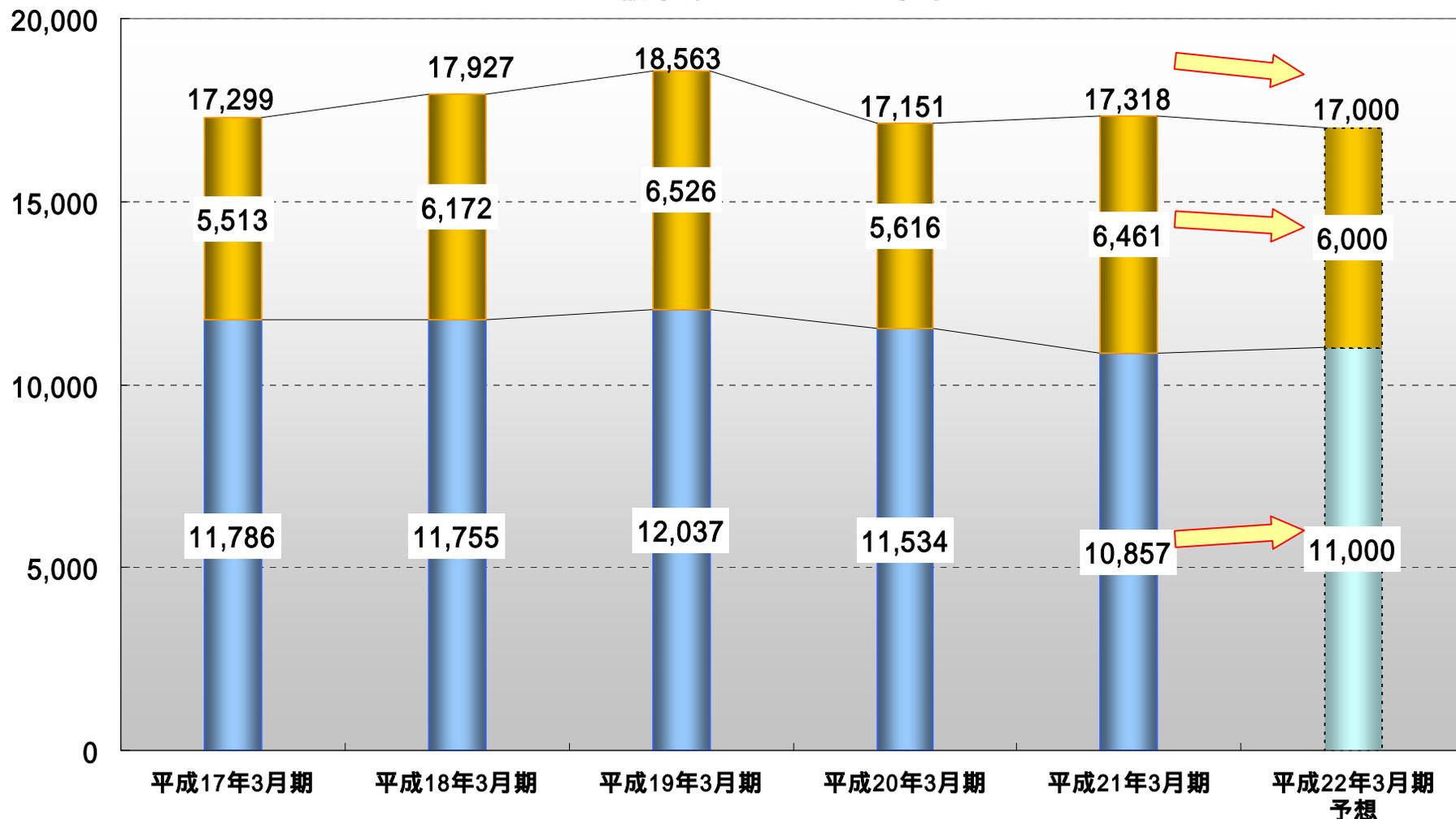
	前年同期	今期予想	前年同期比	備 考
売 上 高	17,319	17,000	98.2%	
空調事業	10,857	11,000	101.3%	
ボイラ事業	6,461	6,000	92.9%	
営業利益	179	220	122.9%	
経常利益	159	200	125.8%	
当期純利益	122	70	-	

売上の推移(予想)



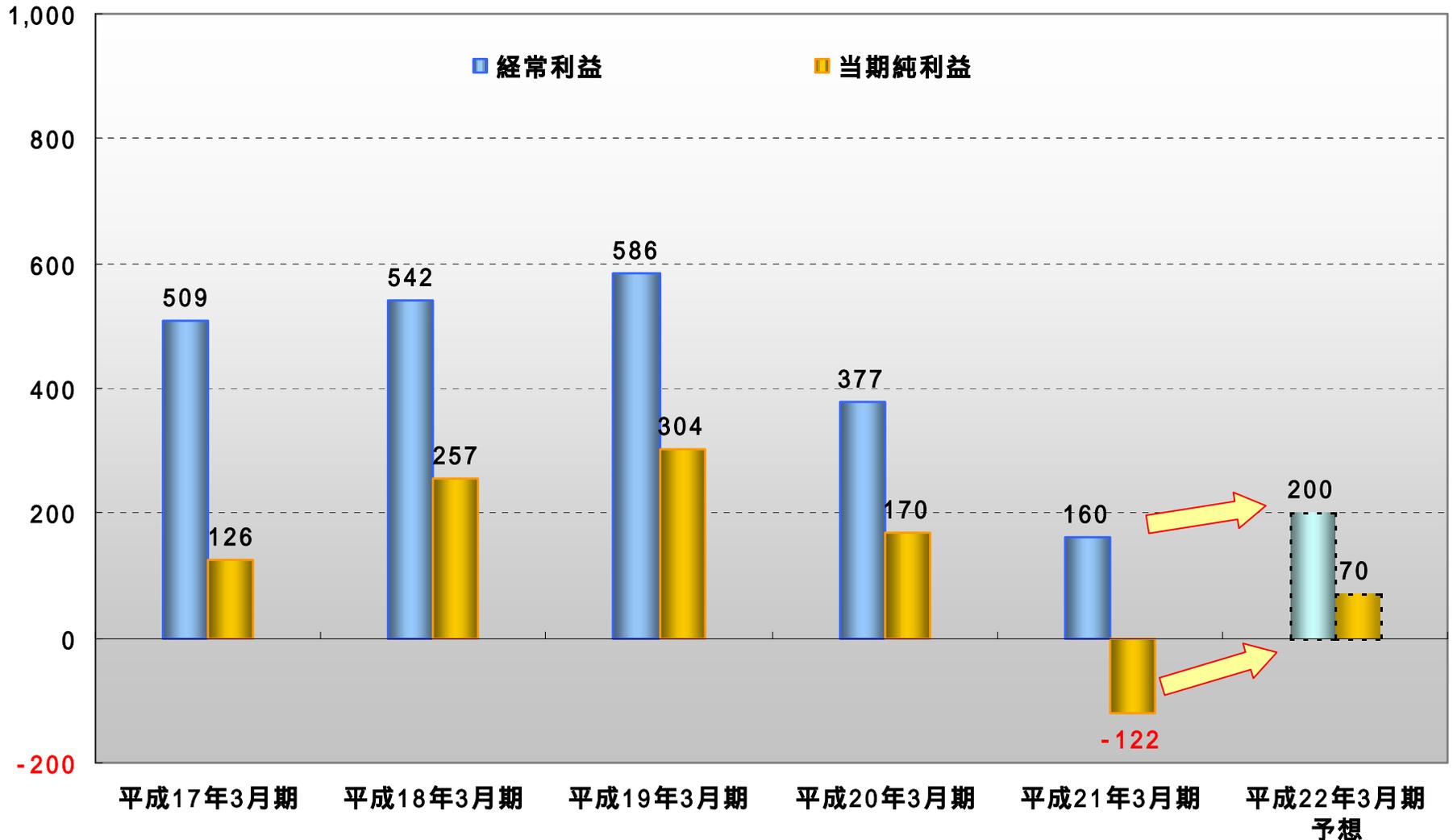
(単位:百万円)

■ 空調事業 ■ ボイラ事業



利益の推移(予想)

(単位:百万円)



空調事業

機器本体は、東京ガス、大阪ガス、東邦ガス3社が運営する「吸収式グリーン制度(05基準)」によりグリーン機に選定されたシグマE-ス1.43シリーズと三重効用吸収冷温水機により省エネルギー性を訴求し、拡販に努めます。

24時間遠隔監視のメンテナンスシステム「テレメソテ」の活用および省エネルギー提案を積極的に行い、引き続き改修改造工事・メンテナンスの拡大に努めます。

ボイラ事業

4月に市場投入した大型貫流ボイラの新シリーズである「イフリートビート」の省エネルギー性、制御性の特長等をPRし、拡販に努めます。

改修改造工事・メンテナンスは、引き続き、省エネルギー改造を中心とした工事増ならびに年間保守契約の獲得向上に努めます。

参 考

当社は、「エクセレントカンパニーの構築」を目指し、顧客ニーズにあった商品を業界一級の技術で提供することにより適正利益を確保し、株主には適正な配当を行うとともに従業員および全事業従事者のために人間性豊かでゆとりのある業務遂行と暮らしを創造し続けながら、社会に貢献することを経営の基本方針としております。

当社の関連する空調業界では、環境性を考えて今後も省エネルギーおよび余剰エネルギーを有効利用する機器の開発が活発化していくものと思われます。

ボイラ業界では、貫流ボイラを中心とした市場構造には変化がないと思われます。

空調・ボイラ業界共に総需要は、景気に左右される傾向があり、新規需要に代わり、リプレース需要が増加してくると予想されます。

本資料に関する問合せ



川重冷熱工業株式会社

企画室 経営管理部

TEL 077-563-1111

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願いいたします。